

デジタル田園都市国家構想を先導する取組 「メロウ倶楽部」の事例

若宮委員

「オンラインコミュニティ」が高齢者の

- ・ I Tリテラシー向上のみならず
- ・ 孤独解消、親睦、励まし合い
- ・ 知的活動・教養・趣味
- ・ 社会貢献

等に寄与しつつ

22年間（パソコン時代も含めると30年弱）継続して

「高齢者の精神的居場所」となっている事実について述べたい

メロウ倶楽部の設立の経緯と現状

設立の経緯

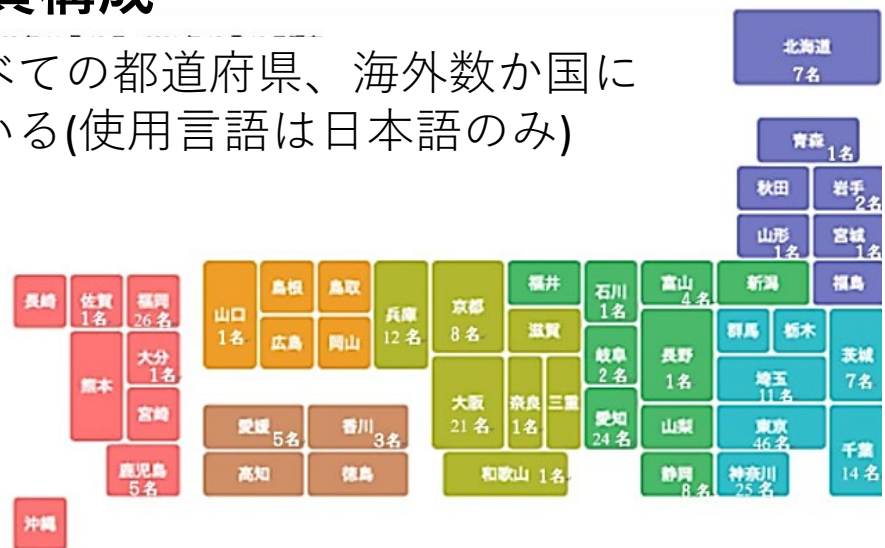
1990年に当時の通商産業省によって提唱されたメロウソサエティー構想により「パソコン通信」を業としていた4社へ「高齢者向けフォーラム」を設置することを要請。黒字化するまで助成金を支給していた。(niftyは黒字化に成功)

パソコン通信撤退後の1999年、当時のニフティーサーブのユーザーの有志が自主運営による「メロウ倶楽部」を設立、今日に至っている。

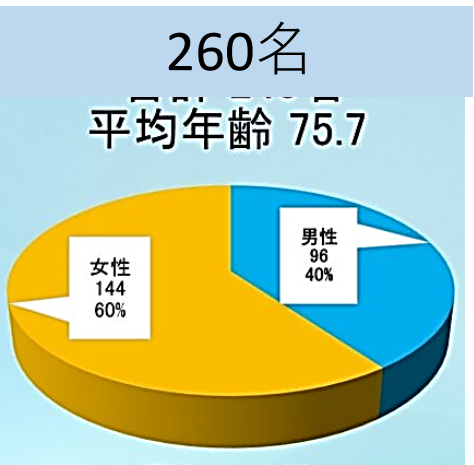
(現状任意団体。目下「一般社団法人化手続き中」)

現状 会員構成

ほぼすべての都道府県、海外数か国に会員がいる(使用言語は日本語のみ)



現状 会員構成



会員の年齢構成



現状 活動内容

喫茶室、生と老、旅の部屋
俳壇、川柳、ドドイツ、短歌
フォトサロン、植物園、カラオケ
IT相談、Workplace相談、投稿
練習室、プログラミング・
デジタル作品、自由作品
エリア活動（関東・中部・関
西・九州）コロナ禍とワクチン、
会員へのお知らせ、新会員デ
ビュー室、会員ご意見室

ZOOMによる勉強会
メロウ楽団

【行事】
年次総会、
オンライン懇親会
Web上賀詞交歓会

楽しめる、悩みを聞いて
もらえる、励まし合える

メロウ倶楽部の特色・問題点

特色 1

- ・役所にも、企業にも頼らない自主運営。
費用は会費（年間**2400円**）と会員からの寄付のみ。
- ・会員は「オフ会」を除くすべてのサービスにオンラインで参加することが可能。
- ・現時点ではMeta社のWorkplaceを中心にZOOMなども利用しており、会員の希望、時代の要請に即応した多種類のコンテンツを用意し、常に新陳代謝を心がけている。

特色 2

- ・入会時には、本名・住所等は届け出を要するが「ハンドルネーム」「生年」「性別」「現住所の都道府県名」以外は非公開。
（過去の経歴にとらわれず「今」を大事にする）
- ・ボード上のトラブルは非常に少ないが「問題発言」等には、やんわりと対応している。
- ・継続率（翌年度継続会費支払者率）**7～80%**
これは、会員が高齢者で、かつ有料であることを考慮するとかなり高いといわれている。
（心身の老化または「お悔やみ退会」はやむを得ず）

特色 3

- ・新規入会はオンラインサインアップに限っているのでまったくITリテラシーのない方は入会不能。
- ・Workplaceの使い方など分からないときはIT相談室、Workplace相談室で質問すると会員有志が教えてくれる
- ・ZOOM勉強会でも会員のスキル向上用講座を開催。
「スマホに不慣れな方向けのスマホ勉強会」等

特色 4

社会貢献も行っている

メロウ伝承館は

「2005国連情報社会世界サミット文化部門」で
日本最優秀賞受賞



問題点

Meta社の使用料値上げ、
円安等で財政的に厳しい



「誰ひとり取り残さない・・・政策」へ寄与できること等

1.導入講習後のフォローアップのために

高齢者のＩＴリテラシーの取得・維持・向上のためには「導入講習しただけ」では困難、実際に教わった知識を使ってみる等受講後も使い続けることが重要。
しかし、学び続ける場合、リアルでの集合教育は提供側、受講側双方にとって負担が大きい。
地域ごとに「オンライン・コミュニティー」を設置し、ここに、フォローアップ体制を用意することが解決策の一つとなり得る。

2.導入講習で学んだことを実地に試してみるために

「地域オンラインコミュニティー」は、導入講習で学んだ「カメラの使い方」など実際に写したものの発表の場としても使える。
撮影し、投稿し、評価してもらう機会があると励みにもなり、スキルアップにもつながる。
「いいね」ボタンがもらえれば、なおやる気になる。
また、ここで仲間が得られる。

3.初心者に必要なＩＴ教材のライブラリーとして

導入講習の際の教材（含ビデオ教材）、ＦＡＱ、その後の、政府や自治体の重要アプリなどもここから検索、ダウンロードできるようにしておく。

4.推進員、自治体の担当者も、高齢者学習状況が分かる

メンバーのなかから、サポーター、リーダー的素質のある人を発掘し、そのなかから次代の推進員候補を育てることもできる。

5.全国の推進員、地域の推進員の交流のためにも

高齢学習者のコミュニティーばかりでなく推進員同士の情報交換のためのコミュニティーも必要と思われる。